

特集

朝ですよ

一地域をおこす人々

次は皆さんの番！

地域をおこすヒントは見つかりましたか？

3つの地域の取り組みには、言葉だけではない、行動による説得力がありました。皆さんの地域に生かせるヒントはあったでしょうか。

「地域を良くしたい。そのためにできることをしたい」と考えている人は潜在的にいるはずですが、行動に移すための一歩が踏み出せないでいる。誰かが声を上げて動かすことで、その思いに共感し、地域に眠っていた力が真価を發揮し始めるのだと思うのです。

今回の特集では、『地域おこしのツボ』として、それぞれの取り組みから得られたヒントをご紹介します。紹介してきた事例やヒントが、自分たちにはそぐわないという場合もあるでしょう。

地域おこしの手法はさまざまで、「これが正解」という明確な答えはないのかもしれない。しかし、逆に言うそれは、「正解がたくさんある」とも言えるのではないのでしょうか。地域が抱える課題や実情は、それぞれ異なります。地域のいまを見つめ、未来に向けてどのようにしていきたいかを真剣に考える。それによって、いま何をすべきかが変わってくるのだと思います。



地域おこしの主役になろう
今回の取材を通して見えてきたのは、時には大変で、面倒なこともある地域おこしを、楽しみに変えて実践している皆さんの姿でした。地域のためと思ってしていることが、やがては自分自身の生きがいにつながり、そこに住んでいる人々を元気にしていく。地域の基本は人なのだというところを、強く感じさせられました。

また、地域おこしには、『言いたしつべ』が必要だということも感じました。「地域を良くしたい。そのためにできることをしたい」と考えている人は潜在的にいるはずですが、行動に移すための一歩が踏み出せないでいる。誰かが声を上げて動かすことで、その思いに共感し、地域に眠っていた力が真価を發揮し始めるのだと思うのです。

ひとつ共通することは、地域おこしの主役は、他でもない地域の人々だということ。自分たちが住むふるさとのことを、自分自身のこととして考えてみてくださ。その一人ひとりの思いが、やがて地域を動かす大きな力になるのかもしれない。



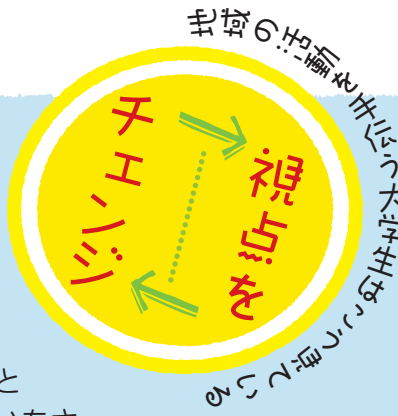
① 平山大運動会の一場面。地域のみんで子どもの成長を見守る雰囲気がよく伝わってくるアットホームな運動会



② 平山大運動会の一場面その2。顔なじみの奮闘に拍手喝采。久し振りに見る顔もあり応援にも熱が入る

これからやってみよう
「平山の経済を回すことをテーマに、いろいろ考えてます」と坂本さん。例えば梅園の再生。もともと平山にある梅園を青年団が管理し、加工品を作れないか。あるいは、アジサイをドライフラワーにして販売できないかなど、すでにある資源の活用を考える。それと同時に、外から人が訪れて楽しんでもらえる仕組みづくり。ボルダリング（クライミングの一種）やサイクリングなど、平山の自然を楽しみ、地域に少

しでもお金が落ちるように。「ゆくゆくは、平山という地域をブランド化していきたい」と比與森真平さんは語る。平山を訪れる人を増やして、認知度を上げていけば、移住にもつながるのではないかと。次々とアイデアが飛び出す、肩の力は抜けている。楽しむことがモットーなのだ。「お金を貯めて、いつかモルディブへ行きたいがよね」と、おもむろに門田さんが言う。いろいろな楽しみをモチベーションに、若者が地域を照らしている。



高知県立大学の学生に平山での活動をどう思うか聞きました

平山では、大学の学外活動という形で地域づくりのお手伝いをさせてもらっています。

運動会や夏祭りの企画段階から携わることで、企画・運営の手法や中山間地域が抱える課題などを学ぶことができ、自分たちのこれからの生かせる貴重な経験をさせてもらっています。また、自分自身の故郷に置き換えて、「私に何ができるか」というふう考えるようになったのも大きな変化です。

運動会などで、地域の子どもやおじいさんおばあさんに再会するのも楽しみの一つ。

今後は、地域の見所や災害情報などをまとめたウォーキングマップづくりなども進めていきたいです。



平山に学ぶ

地域おこしのツボ

- 1 地域のことを主体的に考える。
地域のことを他人事にはしないという心構え。
- 2 情熱も大事だが、お金も大事。
気持ちだけでは続かない。継続できる仕組みを。
- 3 面白いと思えることをやろう。
地域のためにこのテーマを持ちながら、面白がる。